

CeMI 気象防災支援・研究センター

News Letter

Contents

1. 緊急安全確保 正しい理解と活用を
2. 台風並の低気圧
3. お天気よもやま話 ~天気予報の精度は？



1 緊急安全確保 正しい理解と活用を

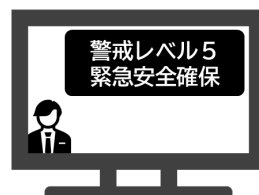
だいぶ浸透してきたと思われる「緊急安全確保」という言葉ですが、2通りの使い方をされていることもあり、正しい理解と活用が不十分なように感じられます。

まず「緊急安全確保」という言葉は避難情報に使われています。「警戒レベル5緊急安全確保」は、災害が発生又は切迫し指定緊急避難場所等への立退き避難がかえって危険であると考えられる場合に、「立退き避難」を中心とした行動から「緊急安全確保」を中心とした行動変容を特に促したい場合に発令される避難情報です。言い換えると「すでに指定緊急避難場所等への立退き避難は危険な状況になってしまいました。今いる場所の近くで、相対的に安全な場所へ直ちに移動する等、命を守る最善の行動をとってください!」という呼びかけです。

もう一つ。「緊急安全確保」という言葉は避難行動にも使われています。内閣府が自治体向けに作成している「避難情報に関するガイドライン」（以下「ガイドライン」）では、「緊急安全確保」を「災害がすでに発生または切迫している状況で立ち退き避難をし遅れた場合に、命の危険から身の安全を可能な限り確保するための次善の行動」としています。このように、避難情報と避難行動とで同じ言葉を使っていることも、理解を難しくする要因の一つかもしれないと思います。

避難情報に話を戻すと、「警戒レベル5緊急安全確保」は5段階の警戒レベルの最上位に位置付けられているため、立ち退き避難を強く促したいときに発令するものと誤解されやすい点には注意が必要です。強い台風が接近してくるようなときに、立退き避難がまだ可能な状況であるにもかかわらず早々と「警戒レベル5緊急安全確保」を発令する、大規模な災害が発生した後に「警戒レベル5緊急安全確保」を延々と発令し続ける等は、求められている運用ではないと思われます。

「警戒レベル5緊急安全確保」の発令は、自市町村の住民のみなさんへの避難支援という直接的な効果のみならず、広域の関係機関からの支援や遠方に住む親戚知人からの情報支援等といった波及的效果も見込めます。ガイドラインには「災害が発生・切迫している状況において、その状況を市町村が必ず把握することができるとは限らないことから、本情報は市町村長から必ず発令される情報ではない。」とあります。それでも市町村の皆さんには、警戒レベル5相当情報が発表された場合等は躊躇うことなく「警戒レベル5緊急安全確保」を発令し、住民の命を守る避難情報として、もっと活用していただきたいと思います。





2 台風並の低気圧

これからの季節、日本付近で急速に発達する低気圧によって強い風や高い波、時として暴風雪などに見舞われることがあります。冬の嵐です。この時、天気予報の解説で「台風並の低気圧」といった言葉を耳にすることがあります。台風並の低気圧のイメージはどのようなものでしょうか。第一に思い浮かべるのが強い風とそれに伴う高波でしょう。一方、雨は季節の違いもあり、台風に伴うような大雨となるケースはあまりありません。

昔から台風による災害に苦しめられてきた日本では、多くの人が台風に対しては特別な警戒心を持っているため、「台風並の低気圧」という表現は、事前に災害に備えるという点では一定の効果が期待できます。しかし、具体的な防災対応を考えると“台風並”ではあっても災害につながるおそれのある現象を的確に捉えてなくてはなりません。イメージだけの危機感では適切な防災対応をとることが困難な場合も出てきます。

では、台風と台風並の低気圧は現象面、特に防災対応でどのように異なるのでしょうか。

まず、風です。台風は一般的に等圧線が同心円状になっ

ており、中心に向かって反時計回りに吹き込む風は中心に近いほど強くなります。一方、低気圧は同じように反時計回りの風が吹きますが、前線を伴っているため等圧線の形は台風のような同心円状ではありません。風の強さも必ずしも低気圧の中心付近で最も強くなるのではなく、中心から離れた所で強い風が吹くこともあります。また、台風は北上してくると上空の強い西風の影響を受けて次第に速度を増して日本付近を通過しますが、冬季、発達する低気圧は北海道や千島近海で速度を落とすことがあり、台風に比べて強い風が長時間にわたって吹き続けることがあります。このため、海上や海岸では広い範囲で波の高い状態が数日にわたって続くことも稀ではありません。低気圧が北海道近海で発達、動きが遅くなると高潮の起こるおそれもあります。北海道など北日本では高潮への備えが十分とは言えない地域もあり、低温、積雪下での高潮による浸水被害が発生することがあります。台風並ではあっても、風や波など、防災対応の上では台風とは全く異なるものです。

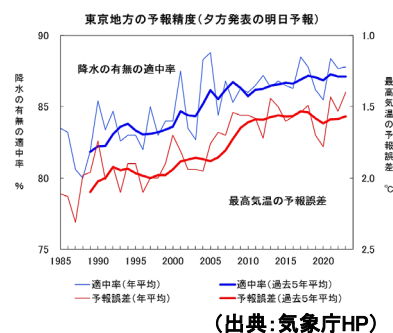
台風と台風並の低気圧、実は“似て非なるもの”であることを知っておくことが大切です。

3 お天気よもやま話 ～天気予報の精度は？

「天気予報は、昔と比べると良く当たるようになったって本当ですか？」「本当なんです！」

右図は、東京地方の予報精度を検証したものです。1985年以降の翌日の予報の結果を、年別に示したものです。これを見ると、年々、予報精度が向上しているのがわかるかと思えます（上に行くほど精度が良い）。

かなり昔の話にはなりますが、「天気予報」は当たらない代名詞のように言われた時代もありました。それに対して、気象庁では、気象衛星やアメダス、レーダー等の観測の導入とともに、現在の気象予測のベースとなる「数値予報」を導入して、年々精度の向上を図ってきました。数値予報とは、コンピューターを用いて地球大気や海洋・陸地の状態の変化を数値シミュレーションによって予測するものです。もちろん、数値予報の精度向上には、コンピューターの性能が飛躍的に良くなったこともありますが、予報を担当する予報官の日々の努力も忘れてはなりません。その結果として、図のように右肩上がり精度が向上し、天気予報は「当たらない！」とは言えない時代になってしま



た。昔は賭けにたとえられていたことが由縁で天気予報は「当たる」「外れる」と言われますが、現在は、「当たる」ことを前提にどのように利用するかが重要になってきています。例えば、夏の雷雨のように、

雨が降るところと降らないところがはっきり分かれるような気象状況もあります。このような時には予報が「降らない」でしたら、降ったところからみると「外れ」です。しかし現在では、このような気象状況の時には、雷雨の可能性のあることをきちんと伝えていきます。つまり、民間の気象会社の情報も含めて、いろいろある気象情報を、自分の行動に合わせて利用すれば、予報としては「外れ」でも実害をこうむることは避けられます。それでも、時には外れるときもあります。それだけ自然現象を予測するのは難しい！



掲載内容へのご意見、そのほかサービスに関するご相談・ご要望等ございましたらお気軽にご連絡ください。

NPO法人 環境防災総合政策研究機構(CeMI)

気象防災支援・研究センター

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22口ーヤル若葉105号
http://www.npo-cemi.com/center.html

☎ 03-3359-7971

☎ 03-3359-7987

✉ advisory@npo-cemi.com

